

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	146人	国語B	146人
② 数学A	146人	数学B	146人

5 留意事項

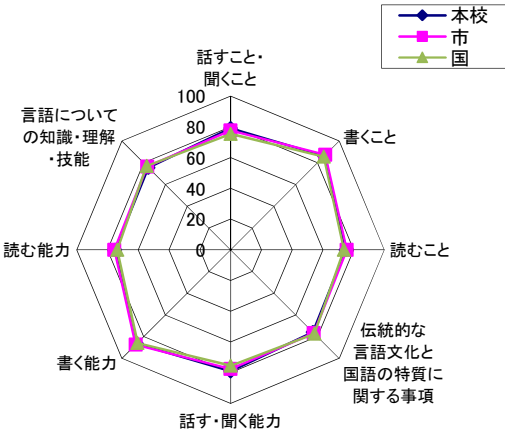
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立 旭 中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

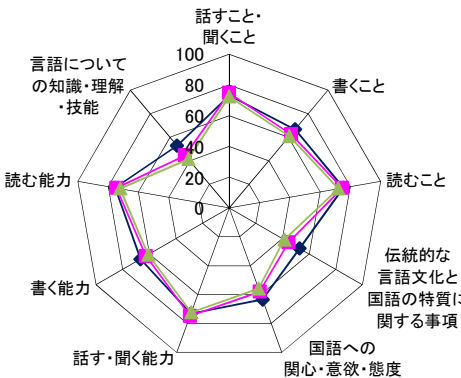
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	79.0	77.6	75.4
	書くこと	86.3	87.3	85.7
	読むこと	75.1	75.6	73.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.7	76.6	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	79.0	77.6	75.4
	書く能力	86.3	87.3	85.7
	読む能力	75.1	75.6	73.8
	言語についての知識・理解・技能	75.7	76.6	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	73.2	74.8	72.4
	書くこと	66.7	62.6	60.8
	読むこと	75.4	74.6	72.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	52.8	44.7	41.4
観点	国語への関心・意欲・態度	63.4	58.0	55.9
	話す・聞く能力	73.2	74.8	72.4
	書く能力	66.7	62.6	60.8
	読む能力	75.4	74.6	72.1
	言語についての知識・理解・技能	52.8	44.7	41.4



★指導の工夫と改善

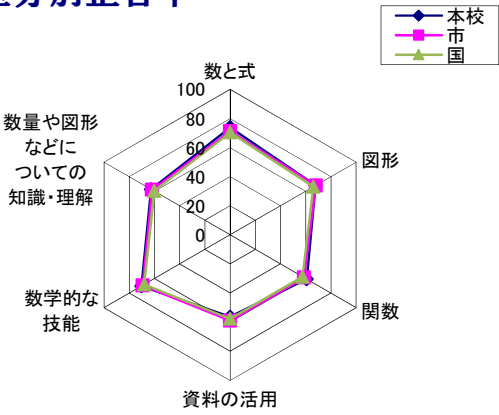
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○A問題の正答率が市の平均より、1.4ポイント高い。 ○スピーチの際に提示された資料の意図を考える問の正答率が全国の平均と比べ、5.9ポイント高い。目的に応じて工夫して話そうとする姿勢が表れている。 ●結論にたどり着いた理由を選択する問いの正答率が、全国平均より2.9ポイント低い。話すための材料を会話を通して集める技能に課題がある。	・今後も様々な話題について話し合う機会を積極的に設ける。 ・相手との会話の中で、相手の伝えたいことを考え、それを導く材料を集める練習を行っていく。
書くこと	○A問題の正答率が全国平均より、0.6ポイント高い。 ●それまで頑張ってきた様子が読み手に伝わりやすい書き直し問の正答率が、全国平均より0.1ポイント低い。客観的な視点で文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書く技能に課題がある。	・他者に読まれる意識をもって文章を書くこと、書いた文章を読み返し推敲する練習を今後も続けていく。
読むこと	○B問題の正答率が、全国平均と比べ3.3ポイント高い。 ●登場する人物を整理したものには当てはまる人物の組み合わせとして適切なものを選択する問題の正答率が、全国平均より1.6ポイント低い。場面の展開や登場人物の描写に注意して内容を理解する技能に課題がある。	・たくさんの物語に触れ、登場人物の行動や発言などの描写から、その主語が誰であるかを常に把握しながら物語を読み進める練習をしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○B問題の正答率が、全国平均と比べ11.4ポイント高い。 ●漢字を書く問題(イトナむ)の正答率が、全国平均と比べ3.7ポイント低い。 ●A問題の適切な語句を選択する問題の多くで、正答率が全国平均を大幅に下回っている。語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う技能に課題がある。	・授業の中で文章に出てくる語句を調べ、短文を作るなどの活動を続けていく。分からない語句をそのままにせず、自分で調べる習慣を身につけさせる。

宇都宮市立 旭 中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

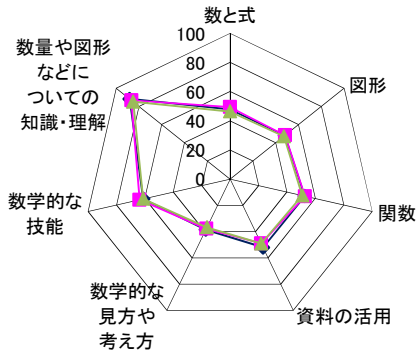
★本年度の国、市と本校の状況
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	73.9	71.4	70.4
	図形	67.8	67.9	66.0
	関数	60.6	58.6	57.4
	資料の活用	56.3	58.9	57.6
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	70.4	69.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	62.7	61.9	60.2



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	47.8	49.4	46.3
	図形	48.1	48.3	47.1
	関数	52.5	52.7	50.8
	資料の活用	52.0	49.0	49.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	38.5	37.8	36.8
	数学的な技能	61.2	63.7	61.2
	数量や図形などについての知識・理解	88.3	86.7	85.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○A問題では全国平均よりも3.5ポイント、市の平均よりも2.5ポイント上回っている。 ○二元一次方程式の解の意味を問う問題では、全国平均を8.0ポイント上回っている。 ●B問題では市の平均よりも1.6ポイント低くなっている。 ●与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現する問題では、41.1%と正答率が低く、全国平均よりも3.0ポイント下回っている。	・計算技能について、授業で行っている小テストを利用し、計算を復習する機会を引き続き与えていく。 ・授業の中で、筋道を立てて説明する問題を出したり、説明させるような発問を考えていく。
図形	○全国平均と比較すると、A問題では1.8ポイント、B問題では1.0ポイント上回っている。 ○錯角の位置にある角を求める問題では、全国平均を6.3ポイント上回っている。 ●市の平均と比較すると、A問題では0.1ポイント、B問題では0.2ポイント下回っている。 ●立方体の見取図から2つの線分の長さの関係を読み取る問題では、全国平均を7.0ポイント下回っている。	・角度の問題については、等しい大きさにある角や、2つの角の位置関係を意識させながら解かせたい。 ・立体については見取図だけでなく、展開図なども利用し、位置関係を把握できるようにしていきたい。
関数	○A問題においては市平均、全国平均ともに上回っている。B問題では、全国平均より1.7ポイント上回っている。 ○比例の式でxの値に対応するyの値を求める問題では、全国平均を4.8ポイント上回っている。 ●B問題では、市平均より0.2ポイント下回っている。 ●与えられた表やグラフから先のことを求める方法を説明する問題では、全国平均よりも0.7ポイント下回っている。	・対応する値を求めることは、どの学年にも共通している問題であるので、各学年で学習する式を身に付けさせつつ、「値を代入して方程式を解く」という、どの学年でも共通な方法で解いていくことを指導していきたい。 ・表やグラフ、式を利用し、未知のものを予測させたり、予測する方法を説明する課題を取り入れていきたい。
資料の活用	○B問題においては、市平均、全国平均ともに上回っている。 ○階級の度数を求める問題では、全国平均を5.8ポイント上回っている。 ●A問題では市平均、全国平均ともに下回っている。 ●範囲を求める問題では、正答率が20.4%と低く、全国平均を8.2ポイント下回っている。	・資料の活用では多くの用語が出てくるので、用語の意味と値の求め方の両方を関連させて身に付けさせたい。

宇都宮市立 旭 中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- ものごとに対して挑戦したり、やり抜いたりすることに対しての肯定割合は、県、全国を上回っており、達成感を味わい、うれしかったという経験が積み重なっていると考えられる。
- 学習に関して、自分で計画を立てて勉強している生徒の肯定割合は60%を超えており、自主学習の習慣が身に付いてきていると思われる。今後も支援を続けていきたい。
- 授業で学んだことを他の学習や普段の生活に生かしていると肯定的に答えた生徒は78.8%で高い結果を得ている。国語や数学の学習が社会に出たときに役に立つと答えており、それを生活の中で生かそうと考えている生徒の割合も多いので、まさに、実践している結果である。
- テレビゲームやスマートフォンのゲームなどの1日の使用状況は県や全国よりも下回っており、日頃の使用に関しての学校での指導、家庭での協力によって、生徒が自ら考えて使用していると考えられる。
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があると答えた生徒は76.7%で、県や全国を大きく上回っている。よくするために何をすべきか考えており、ボランティア活動に参加している生徒の割合も大きい。本校のボランティア活動に対する取り組みの成果であると考えられる。教師の負担も大きいですが、本校の伝統でもあり、誇りでもあるので、これからも積極的に推進していきたい。
- 自分で課題を立てたり、課題について自ら考え取り組もうとしている姿勢がみられ、総合的な学習の時間などで課題解決や発表を経験し、通常の授業でもその経験を生かしていると考えられる。今後も授業の中で考えを発表したり、話し合ったりする場面を多く取り入れたい。
- 学校全体で取り組んでいる授業のめあて（学習課題）の提示や振り返りは、ノートに書いている肯定割合が90%をこえており、今後も継続してすべての授業で取り組んでいきたい。
- 予習をしている生徒の割合が若干少ないことや、学習についての時間は比較的とっているが、内容が薄いようなので、今後は内容を充実させるよう指導していきたい。

宇都宮市立 旭 中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・家庭学習時間の確保	・家庭学習プリントに取り組ませる。（学力向上ノート国社数理英5冊）自分で学習内容を考え、ノートにまとめる。（自主学習ノート1冊）	・学習時間が増え、理解が深まった。
・授業の充実	・学習課題を提示し、振り返りをさせる。	・授業のめあて（学習課題）や振り返りをノートに書いている生徒の肯定割合が9割を超えた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・学習した基本的な内容が定着していない。	・授業以外での学習支援の充実と教材の有効活用	・休み時間、放課後等を活用した支援 ・各種教材を活用して定着 ①レディネスシート②フォローアップシート③パワーアップシート④フォローアップ